

授業科目 臨床生理学実習 II

【担当教員名】 生駒 俊和 他		対象学年	3	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○		○	◎	
【概要・一般目標：G10】 臨床生理学 II の知識を基礎に、神経・筋系、呼吸器系と腹部超音波検査についての技術と心得を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳波計を操作する。 2. 脳波の判読の流れを説明する。 3. 誘発脳電位を測定する。 4. 神経伝導速度を測定する。 5. 換気機能検査を実施する。 6. 呼吸機能検査のデータを評価する。 7. 超音波装置を操作する。 8. 超音波像を評価する。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-4	脳波検査 1 脳波の記録と整理			1	講義・実習
5-6	脳波検査 2 脳波の判読			2	講義・実習
7-10	誘発電位 記録と整理			3	講義・実習
11, 12	神経伝導速度 記録と整理			4	講義・実習
13-16	呼吸機能検査 記録と整理			5, 6	講義・実習
17-21	超音波検査 記録と整理			7	講義・実習
22, 23	超音波検査 画像の判読			8	講義・実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床検査学講座 生理機能検査学 第3版	大久保 善朗 他	医歯薬出版	2010・4,830円・2010年3月
参考書		臨床工学講座 生体計測装置学	石原 謙	医歯薬出版	2010・4,830円
その他の資料		資料配布			
【評価方法】 レポート(20%)、実技試験(20%)、定期試験(60%)			【履修上の留意点】 臨床生理学 II で学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのレポートを提出することが単位修得の条件である。 参考書は生体計測装置学でレポート作成等に利用して下さい。		